2025 年 10 月 13 日

グレナダにおける経済協力（ODA）実施施設視察ツアーの実施
プレスリリース

2025 年 10 月 1４日、在トリニダード・トバゴ日本国大使館は、グレナダ外務省及び水産局の協力を得て、グレナダの新聞・テレビ関係者とともに、日本の ODA 実施施設を視察するツアーを実施しました。日本・グレナダとの外交関係樹立５０周年を記念して。ツアーを率いた梅澤彰馬大使は、「両国間の永続的な絆は単なる偶然ではなく、地理的、経済的、そして社会的特徴の共有によるものです。日本とグレナダはともに、それぞれ太平洋とカリブ海に位置する島嶼国であり、歴史的に水産業は食料供給の確保、雇用機会の創出、そして外貨獲得において極めて重要な役割を果たしてきました。日本のプロジェクトによる貢献を目の当たりにし、両国間の強固なパートナーシップを再確認していただけることでしょう。」と述べました。

　プレスツアー冒頭のオープニングセッションではレノックス・アンドリューズ経済開発・漁業大臣から、「日本からの協力はすべて無償資金協力によるものであり、持続的水棲生物資源利用政策の下互いに共同路線を歩んでいきたい。グレナダの水産業発展に日本の貢献は多大であった。」と述べました。

開会式にはメディア、政府関係者等 50 人ほどが参加しました。

レノックス・アンドリューズ経済開発･漁業大臣から日本の協力への感謝が伝えられました。

梅澤大使は日本とグレナダとの 50 年にわたる友好関係と協力の歴史を述べました。

オープニングセッション後、メルビル、グラン・エタン・ロード、グレンビル、ゴーブ、グラン・マルの順に日本によって整備された水産施設の視察を行いました。
最初に訪れたメルビル魚市場は首都圏への水産物の流通の拠点として整備され、高品質な水産物を供給しています。

メルビルの施設は日・グレナダ 50 周年を記念した飾り付けがされました。

施設の水産物販売ブースは敷氷され、水産物の鮮度を保っています。

水産局スタッフは日・グレナダ 50 周年記念のウェアーを着用し、ツアーを盛り上げました。

次に訪れたグレンビルは水産施設と共にグレナダの南部・東部を結ぶ回廊の整備されたグラン・エタン・ロードが整備されたことにより、水産物流通の活性化と南東の交流が促進され、グレナダ全体の経済成長に裨益しました。グレンビル水産施設は当時水産振興が遅れていた東部海岸の漁業を発展させました。

グレンビル水産施設をプレスに案内する施設マネージャー。

施設内の製氷施設の説明。維持管理が十分にされている。

プレス、政府関係者に加え施設で働く人々との記念写真撮影。

ゴーブはグレナダで古くから伝統的漁業を行ってきた漁業基地でした。ハリーケーン・ベリルによる被害を受けた施設は、日本の協力で強固なな施設に生まれ代わり当地の伝統漁業を支えています。

ゴーブ水産施設をプレスに案内する施設マネージャー。水揚げ桟橋には大小の漁船が係留されています。

日本の協力の成果についてプレスからの質問に答える施設マネージャー。

この事業に携わった現地建設会社の担当者は、施設建設に関する日本起業の技術力について絶賛しました。

最後に訪れたグラン・マル水産施設はグレナダのマグロ輸出産業を支える拠点として活躍しています。マグロ漁業はグレナダの輸出産業を支える重要な産業に発展しました。日本からの FAD(Fish Aggregation Devices)の供与により、漁業者が安心してマグロ漁業をできる環境も整備されました。

ODA 名盤の前で大使に感謝を伝える施設マネージャー。

参加したプレスは積極的に質問や取材を行っていました。

プレスツアー後には、新聞・テレビで同ツアーの様子が取り上げられました。日本の開発協力事業で建設された水産施設での活動の様子がメディアを通じて発信されたことで、グレナダ国民の我が国の開発協力に対する理解がよりいっそう深まりました。